

第6回在り方検討委員会議事録

日時：平成29年1月18日（火）18:00～19:30

場所：いな穂

はじめに、尚恵学園の将来の在り方について、前回及び前々回で意見を出し合った「今後の方向性（将来像）」をとりまとめたものを資料（別添）で確認した。

今後の方向性は、大きく3つのくくり方～ 1つには、日中活動支援等利用者支援のあり方。もう1つには、日中活動支援を支えるハード面からの整備方法。3つ目に、今回の社会福祉改革でも重要な視点となっている地域とのつながり方～ で整理したものの。

この視点から、当在り方委員会の着地点として、いよいよ今後着手すべき具体的な事業内容（提言）を議論する。

ここで、どのような事業を行って尚恵学園の良さを発展させていくか、という事業内容を議論するうえで再度**職員アンケート調査結果**を確認した。

アンケート内容の集計やグラフ作成にあたったメンバーのうち山口委員より詳細な報告、意見が出され、また各委員からも感想が述べられた。

アンケート集計は7年未満の職員と7年以上職員とに分けて集計したが、在り方県と委員会の報告書には個々の意見は別としてグラフ類は全職員の結果を掲載する方針となった。

アンケートの回答では旧成人寮敷地の活用に関して大きな期待感が伺え、在り方委員会としても、それらの意見も十分に参考に来年度から行う具体の事業内容を話し合った。

旧成人寮敷地は整備の仕方によっては十分地域住民との交流の場になるとの委員全員の認識。

地域とのつながりに関し、現状として近隣とのつながり方はお互いに助け合うような形が出来ているが、そこから少し離れ神立中心部とのつながりとなってくると一方的に「してもらっている」関係であり「こちらからしてあげる」ことがやれていないことが課題との意見。

尚恵学園からも神立地域に何か働きかけることが必要であり、それには、神立にはどういった団体が活動しているのか、飲料組合以外の活動なども把握したうえで尚恵学園として出来ることは何かを検討する必要があることなどの指摘がなされた。

旧成人寮敷地が、地域との交流の場になると、そこでのカフェやまんだらパン販売も可能になるなどのメリットも確認。

一方、旧成人寮敷地に障害福祉の拠点としての機能を集約することに関する意見もコスモスの委員から出された。緊急時に対応できる体制、支援が難しい障害者への対応、相談などワンストップ的な機能を持った拠点に、という意見である。

旧成人寮敷地の活用を含む新規提案事業については、本日の議論がしやすいように、前回までに出された事業案を報告書の目次に全部で10項目にして落とす形で示されたもの（下記）で検討。

前回までに整理された方向性に沿って、

▽日中活動支援の充実事業

▽旧成人寮敷地の活用

▽尚恵厚生園の施設の老朽化対策

▽地域との交流、地域への貢献事業

▽利用者支援環境の保全・創出事業

という項目で検討を行った。

なお、具体的な施策を提言として打ち出すに当たって、当在り方委員会での検討が厚労省の示す社会福祉法人改革の施行スケジュール上どういった位置づけにあるのか、配付の資料（社会福祉法人改革＝施行スケジュール、社会福祉充実計の作成・承認・実施の義務化について）に基づいて確認した。

3月までに算出した社会福祉充実額（再投資可能財源）に対応した「社会福祉充実計画（案）」（5か年計画）を策定し税理士等に確認して貰い、新年度の定時評議員会の承認を経て市に承認申請を行うこととされている。その承認を受けて29年度後半からはいよいよ事業にとりかかることになるといった今後のスケジュールについても確認した。

この社会福祉法人改革により行うことになる新規の事業とは、当在り方検討委員会において、ここまで議論してきた現状、課題、そして「今後の方向性」から導き出される提案事業の一部となるため、次回までにさらに新規に取り組むべき事業を抽出し、次回2月の在りかた委員会でさらに検討を加え、3月最終とりまとめ→3月開催役員会への報告と進むことを確認した。

次回第7回在り方検討委員会は、2月8日（水）に実施予定。3月の役員会の日程によっては、3月8日に最終第8回を開催して役員会に上げる報告書の最終調整を行う予定とした。

(資料)

尚恵学園の今後の方向性（まとめ）

利用者の高齢化や重度化など、尚恵学園を利用する方々の将来課題に対応していくために、その人にあった支援方法をどうやって行うか「日中活動支援等の充実」を図っていく必要があります。

同時に、古い施設や設備を更新するなど当学園の機能充実のための施設整備を積極的に行い、また、これまで以上に多方面で地域との交流を行うなど、尚恵学園の機能や魅力を確実に増し、それを正しく情報発信することが必要です。

1. 日中活動等支援機能の充実強化（ソフト事業）

利用者及びその家族の高齢化や地域連携を念頭においた日中活動の充実強化を図ります。

(1) 高齢化、重度化、年齢差に対応した日中活動

利用者の高齢化への対応を最重要課題と捉え、無理のない楽しい日中活動が行えるよう努めていく必要があります。

利用者の年齢的な体力の違いや興味の違いに応じた日中活動を行うため、常に活動内容を検証し、高齢の方には活動事業を増やすことよりもいま行っている活動の良さを活かした事業を提供し、若い方に対しては例えば球技などの運動も取り入れた日中活動を提供することが必要です。

(2) 地域に開かれた日中活動

利用者・職員は住民の一員であることを意識し、これまで以上に地域と相互に関わっていくことが大切です。

そのため、旧尚恵成人寮敷地を活用し、利用者の家族は勿論のこと、勤労者や学生や住民など地域の方々とも楽しく交流できる支援を目指します。

特に、移転後日の浅い尚恵成人寮にあっては、近隣の住宅地や隣接する県立湖北高校との接点が多く生まれるよう、例えばまんだらパンなどを販売することなどを通じて努力する必要があります。

(3) 周辺環境を活かした日中活動支援

尚恵学園の独特な立地環境を最大限に生かし、利用者に対し施設を利用しながらも地域で生活しているのと同じような日中活動等の場の提供を行う提供を行うことを目指します。

そのため、民家の周辺の小道や林や水辺などが点在する当学園の施設周辺の地形を利用した日中活動支援などを行ないます。

その環境は、地域のすべての人達と共有します。

2. 支援機能向上のための施設整備（ハード事業）

将来とも十分な日中活動等の場を確保する必要があります。

また、日中活動の充実強化や地域貢献の拡充を図っていくためには、老朽化と狭隘化・陳腐化の著しい尚恵厚生園の施設や設備の新設・改修を含め、早急に計画的な整備を進める必要があります。

その際、尚恵学園の優れた立地環境を活かし、利用者も職員スタッフも使いやすく働き易い施設づくりを目指します。

(1) 老朽施設・設備の更新

すでに減価償却が終わった施設をはじめとした古くなった施設が今も尚恵学園で“現役施設”として使用されているのは、そこに金銭価値とは異なる大事な価値が有るからに違いありません。

とはいっても、物理的には建物の床も窓も天井も痛み、機材も旧式化してゆくことは止められません。そこで、特に、尚恵厚生園内にある作業棟や旧成人寮敷地に残る作業棟などは、古くなった施設の良さを活かしつつさらに機能を向上させるべく建物施設及び機械設備の更新を順次実施します。

(2) 高齢化に対応した施設整備

利用者の高齢化に対応し、施設内外のバリアフリーを進める必要があります。ユニバーサルデザインの積極的な導入など、利用者、スタッフ双方にとって利用し易い施設づくりを目指します。

(3) 日中活動等の場の確保

日中活動等の場が不足しています。特に尚恵厚生園の建物内の日中活動

スペースにはほとんど余裕がありません。

尚恵成人寮においても今後利用者の個性に合わせた日中活動や周辺地域との関係を構築するような活動の場を考える必要が出てきます。そこで、将来を見据えた新たな日中活動等の場の確保を目指します。

(4) 旧成人寮跡地の活用

上記のさまざまな課題をクリアできる面積と立地条件に恵まれた旧成人寮跡地において、今後は、旧成人寮の建物の撤去時期を定め（県との調整）、それを念頭に敷地全体の利用方針を定める必要があります。

(5) 周辺環境に配慮した施設設備の整備

尚恵学園の施設整備が周辺の景観・環境に負の影響を与えないように心がけながら施設整備を進める必要があります。

さらには、当学園が市民に憩いの場を提供できるよう、職員、利用者、地域住民、市民グループなどが力を合わせて周辺自然環境を向上させるような事業を考えていく必要があります。

3. 地域との交流、地域への貢献

本年（平成 28 年）3 月 31 日の社会福祉法改正による社会福祉法人改革により、地域における公益的な取組みを実施する責務が求められています。

また一方では、第Ⅱ章に上げた相模原市における殺傷事件を契機に、知的障害者への人々の理解を深め、障害福祉の啓発を促進するため、地域への正しい情報発信や地域とのつながりが強く求められています。

当法人としても、これまでの地域とのつながりの歴史を土台として、今後さらにこの地域で公益的なまたはそれに準じた事業を展開していく必要があります。併せて、正しい情報の提供・発信に努めていくことも必要です。

(1) 身近な地域活動への積極的な参加

この地域でも少子高齢化が進行しコミュニティの維持に苦慮しているのが現状と思われます。周辺地域のちょっとした祭事や行事に関わって、利用者やスタッフがどのような役目であれ参加することが望まれます。

(2) 地域の人々の参加による福祉の場の創出

神立地域の学生、勤労者、商店街の人々、周辺住民との交流を通じて、障害福祉への理解を深めてもらう必要があります。

そのためには、当学園に来訪してもらうのが最も手っ取り早い方法であり、例えば旧成人寮敷地に地域の人たちも使いたくなる施設を整備することや、恵まれた自然、地形を活かした散歩コースとなるような環境を整備して提供することも良い方法と思われる。

(3) 周辺地域の環境の保全と創出

神立地域、特に鉄道東側の神立市街において、当学園がある市街化調整区域は唯一昔ながらの自然風景を残した貴重なエリアですが、交通インフラが発達しており、このまま何もしないで放置すると将来は虫食い状態（スプロール化現象）になる可能性が大きい地区です。

このわずかに残る自然環境を、市民全体が楽しむことができるように、当学園が行政に代わって保全しさらには創出することを目指します。

新たな事業の提案（案；項目のみ）

- 提 案 1：日中活動支援の充実事業（1） 17
- ・成人寮敷地内に新たな日中活動の場の創設
 - ・県立湖北高校や近隣住民との交流事業の実施
- 提 案 2：日中活動支援の場の拡充（2） 18
- ・地域住民と交流できるバラエティーパーク（運動施設やドッグラン）の整備（旧成人寮敷地）
- 提 案 3：旧成人寮跡地の活用事業（1） 19
- ・まんだらパン、クッキー、おもちゃ、和紙製品等の販売コーナー等の設置
- 提 案 4：旧成人寮跡地の活用事業（2） 20
- ・旧成人寮建物及び付帯施設の撤去又は改装
 - ・利用者と家族が過ごせる施設の整備
- 提 案 5：尚恵厚生園の老朽化対策（1） 21
- ・日中活動が出来るスペースの確保
 - ・現施設のバリアフリー化
- 提 案 6：尚恵厚生園施設の老朽化対策（2） 22
- ・訓練室2・3（おもちゃ班）ほか老朽建物の建替え等
- 提 案 7：地域との交流、地域への貢献事業（1） 23
- ・尚恵学園周遊散歩コースの整備（おもちゃ工房直結、旧成人寮跡地へのなだらかな登り道整備）と地域交流
- 提 案 8：地域との交流、地域への貢献事業（2） 24
- ・運動施設やレクリエーション施設を利用した学生や住民、子供との交流
- 提 案 9：尚恵学園の利用者支援環境の保全・創出事業（1） 25
- ・尚恵厚生園駐車場下の土地の買取り整備などによる日中活動（散歩、遊び場）の場の拡大
- 提 案 10：尚恵学園の利用者支援環境の保全・創出事業（2） 26
- ・自然環境の保全と桜を活かした景観の創出
 - ・休耕田（所有地）や水路を活かしたビオトープの管理（日中活動）と小・中学生の自然教育の場としての提供